

# 令和5年度における太田川再生方針に基づく 取組の成果及び今後の方針について

議題4  
資料6



# 令和5年度 天然アユ遡上数推定調査について(5月末)



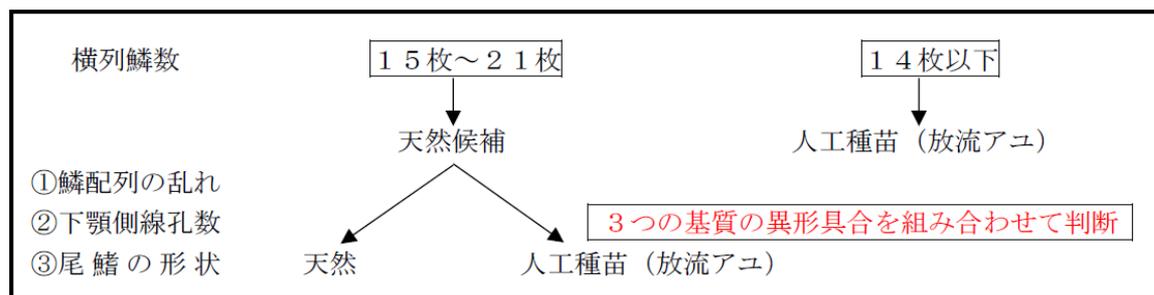
潜水目視調査



由来判別調査



由来判別調査(鱗の計数)



判別基準

- ・潜水調査により生息数を推定
- ・コロガシ釣りで採捕したアユの由来判別により天然率を算出



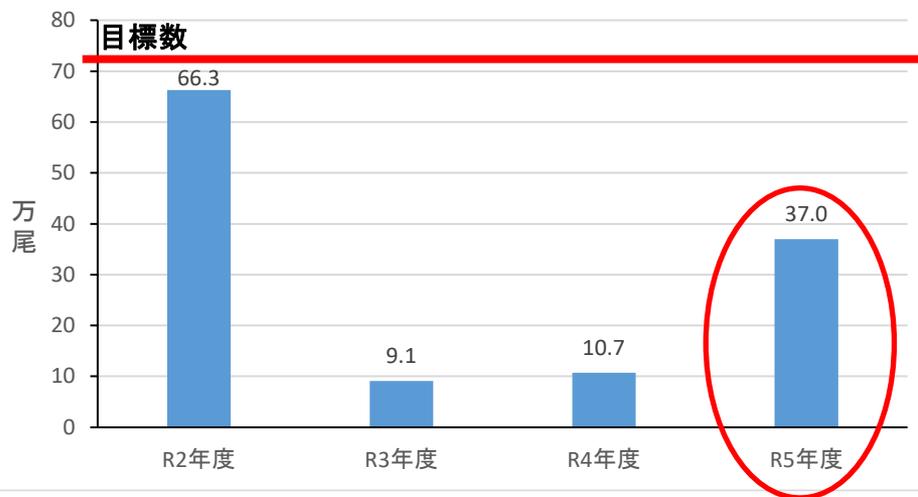
天然アユ遡上数

# 令和5年度の天然アユ遡上数推定調査結果について(5月末)

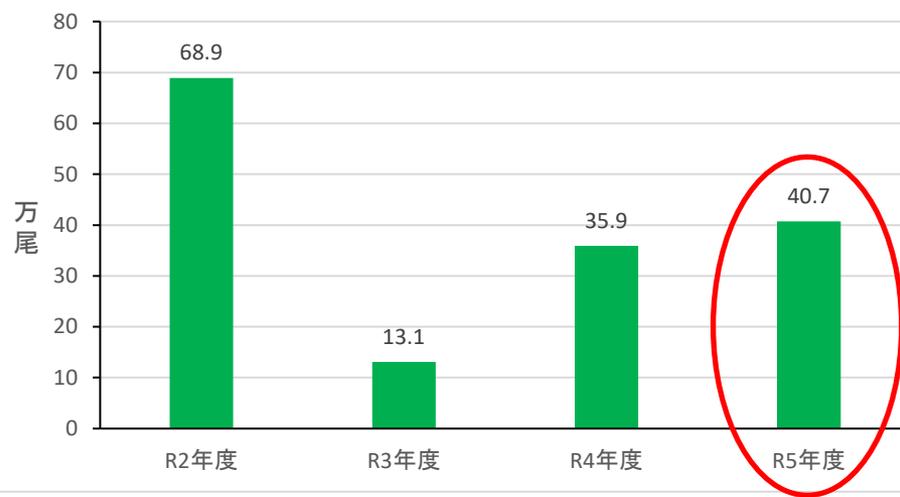
## 平成30年度第2回太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会

太田川再生方針に基づく、アユを増やす取組の目標数を検討し、太田川本川の天然アユの遡上目標数を、71万尾と設定

天然遡上数



生息数(天然+人工)



令和5年度推定天然遡上数は37.0万尾であった。

令和5年度は、令和4年度に続き遡上目標数を達成できなかった。

# 令和5年度のアユの産卵状況の調査結果について(10~11月)

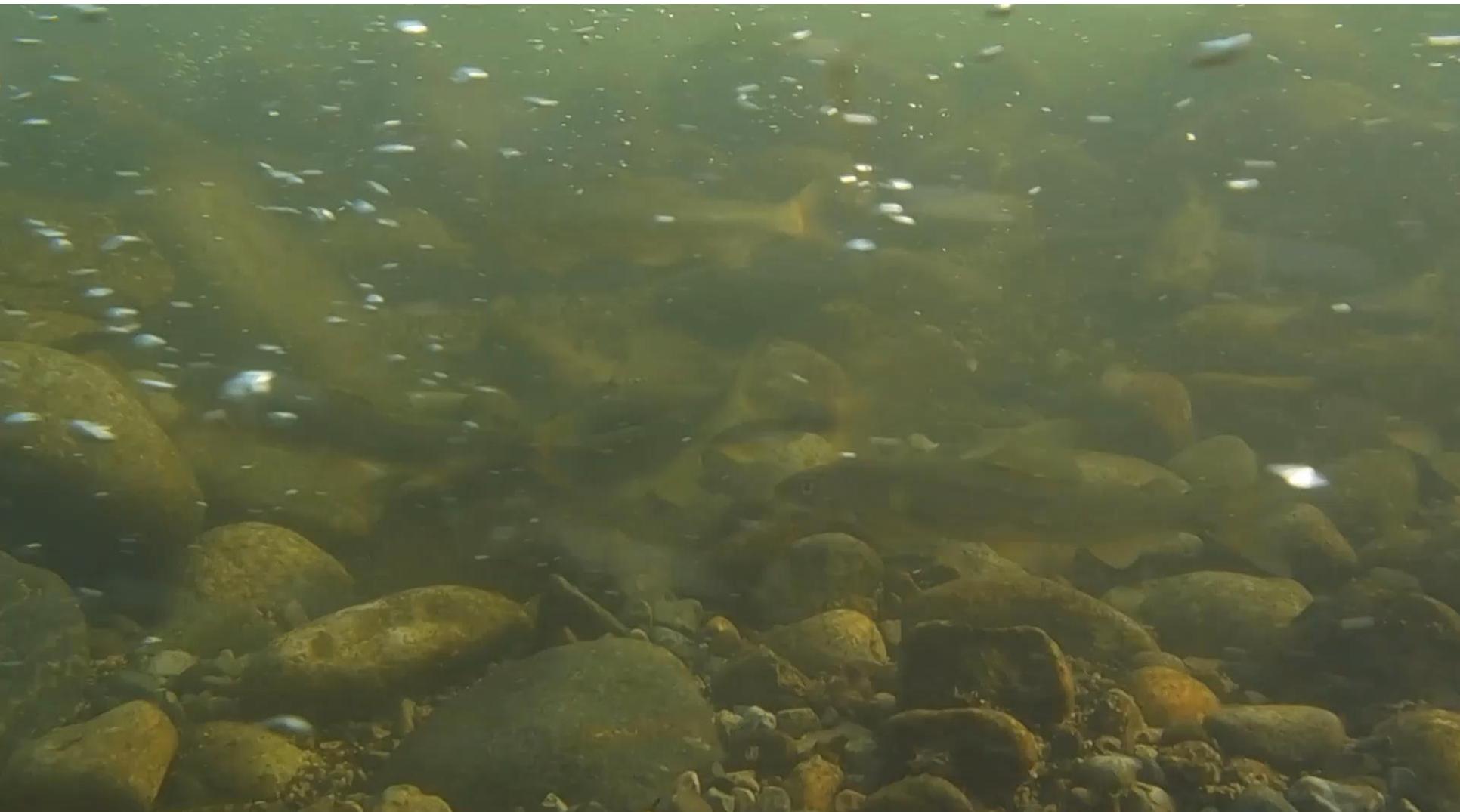
旬	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	測定日	水温(℃)	測定日	水温(℃)	測定日	水温(℃)	測定日	水温(℃)
上旬	10/4	22.6	10/1	-	10/2	24.1	10/3	19.5
			10/6	-				
中旬	10/13	20.1	10/13	19.2	10/11	23.0	10/13	19.5
	10/17	20.7	10/20	18.1	10/19	19.1	10/20	17.5
下旬	10/26	16.6	10/27	16.2	10/29	18.0		
上旬	11/2	17.6	11/2	16.6	11/5	17.6		
	11/9	17.2	11/10	15.5				
下旬			11/22	13.8				
			11/30	13.3				
上旬			12/7	10.5				
中旬			12/15	8.7				

：産着卵確認日



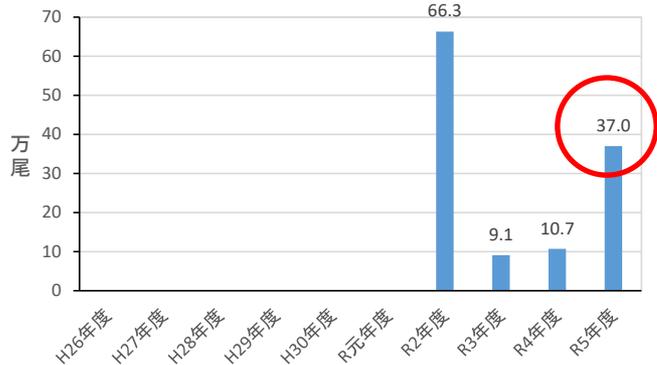
令和5年度の大槇の瀬における推定産卵数は約1,076万粒であった。

産卵する様子(11月2日):大槇の瀬

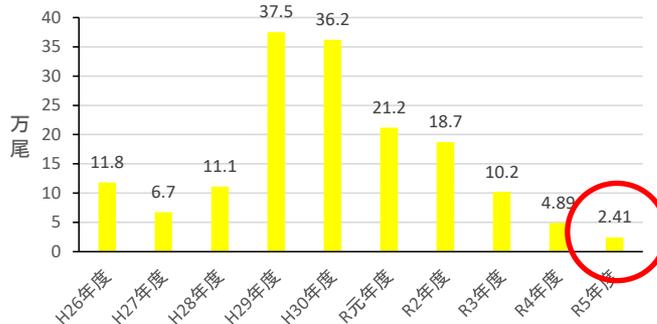


# まとめ

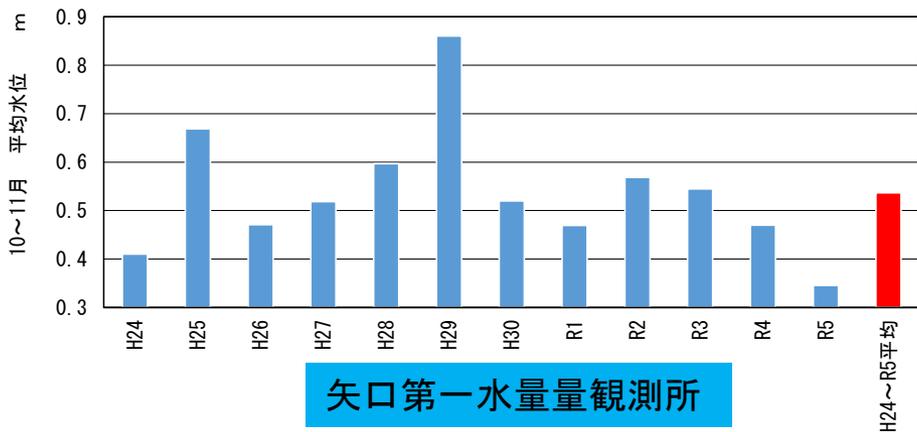
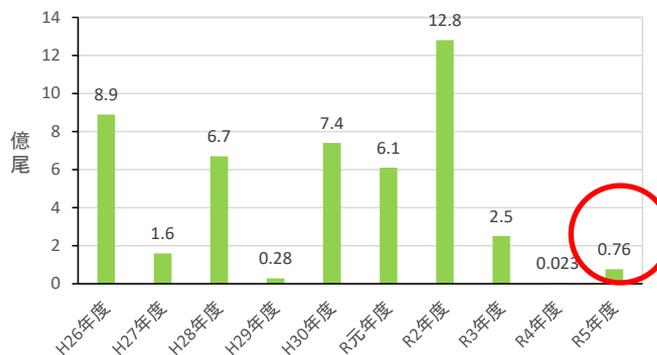
推定天然遡上数



漁協採捕尾数  
(組合員・遊漁)



推定流下仔魚数



矢口第一水量観測所

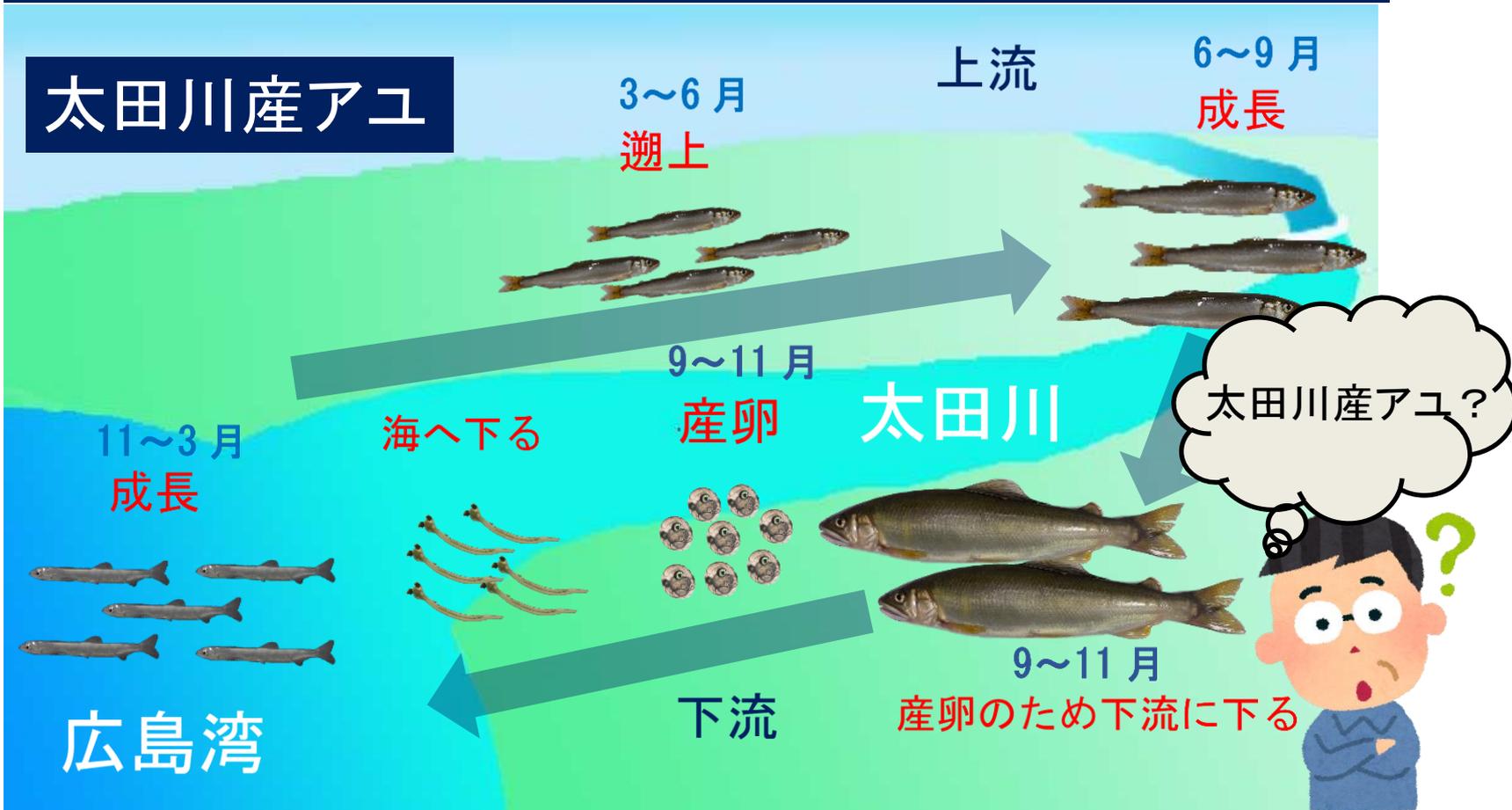
—令和5年度の太田川の状況—

- ・天然遡上数が令和3年及び4年より多い。
- ・産卵時期に雨が降らず渇水であった。
- ・11月に太田川漁協付近に親アユが群れていた。

流下仔魚数は平年に比べると少ないが、親魚放流等の取組の実施により流下仔魚数の増加に繋がった。渇水により、11月に太田川漁協付近に残っていた親アユも降雨があれば、産卵場へ下り産卵に寄与し、流下仔魚がさらに増加した可能性がある。

# 太田川産アユの認知度向上に向けた取組について

## 太田川産アユ



太田川産アユの認知度向上を目指した。

太田川産アユのPRを実施。

# 太田川産アユの認知度向上に向けた取組について

## 太田川産アユのPR

### マリホ水族館の取組



水族館でのアユの展示

### 太田川漁協の取組



体験型のアユの講座

# 太田川産アユの認知度向上に向けた取組について

太田川産アユ

太田川漁協の取組

成長

3~6月  
遡上

太田川

9~11月  
産卵

海へ下る

11~3月  
成長

広島湾

下流

9~11月  
産卵のため下流に下る

太田川産アユ?

太田川産アユの認知度向上、消費拡大等を目指した。

他産地養殖アユとの差別化

令和4年度に新ブランド「レモンアユ」の立ち上げ。

# レモンアユとは

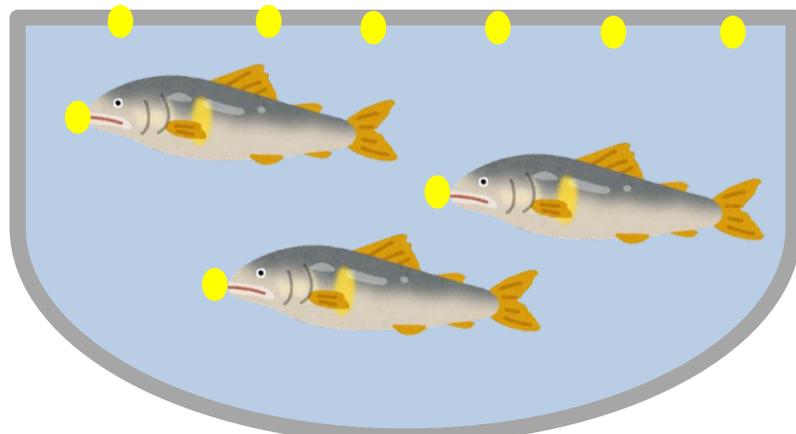


太田川漁協

レモンをすり潰す



餌に混ぜる



アユに与える



広島大学

リモン<sup>※</sup>の蓄積の確認

※レモン由来の成分



レモンアユ

中

## レモンアユ広報は高校生

広島中等教育学校生 ポスター！動画制作

広島市安佐北区の太田川漁協は9日、レモン果汁を餌に混ぜて育てた「レモンアユ」の2年目の出荷をスタートさせた。広報役を担うのは、同区の広島中等教育学校の高校生。店頭や販売イベントで使うポスターと動画を制作し、幅広い年代に地元の新ブランドの魅力をアピールする。

(加納優)



谷さん(左)からレモンアユの説明を聞く谷川さん(中)と奥田さん(右)

主に担当するのは、いずれも高校2年で、美術部長の谷川結望さん(17)と放送部長の奥田陽菜さん(17)。谷川さんは黄を基調にアユとレモンを巧みにデザインしてポスターを制作。奥田さんは昨年からの撮影してきた素材を駆使し、約3分のPR動画

画に編集した。放送部が昨年、レモンアユをテーマにドキュメンタリー映像を作った縁で、同漁協が2年目のPRを依頼した。作品は県高校放送文化コンクールで最優秀賞に輝くなど高い評価を受け、奥田さんは「撮影に協力してくれ

た漁協の皆さんに恩返しをしたかった」と力を込める。谷川さんも「以前からレモンアユに興味があった。力になりたいと思った」と話す。

漁協は昨年よりもレモン果汁の量を増やして育てたレモンアユ約1200匹を順次出荷し、10日

からフジグラン緑井(安佐南区)など市内のスーパーの店頭に並ぶ。グリーンレモンの果汁を稚魚に与えて新開発した「レモンアユの稚アユ」も地域イベントなどで販売。各売り場でポスターや動画を消費者の目に留まるように掲示したり、流したりしてもらう計画だ。

漁協でアユの育成を担当する谷勇樹さん(39)は「若い感性でPRしてもらえるのはありがたい。子どもさんも含め、多くの方に味わってほしい」と話している。

谷川さんがデザインしたポスター



ポスターデザイン 広島中等教育学校

## 「レモンアユ」PR用のポスターを作製

# レモンアユの販売



高校生が作成した「レモンアユ」PR用のポスター

# レモンアユの販売



広島市中央卸売市場水産部  
魚食普及委員会の仲卸業者



スーパー等でのレモンアユフェアの開催

# レモンアユの販売



太田川漁業協同組合



イベント等でのレモンアユの塩焼きの販売

# レモンアユの販売



太田川漁業協同組合

## レモンアユの塩焼き

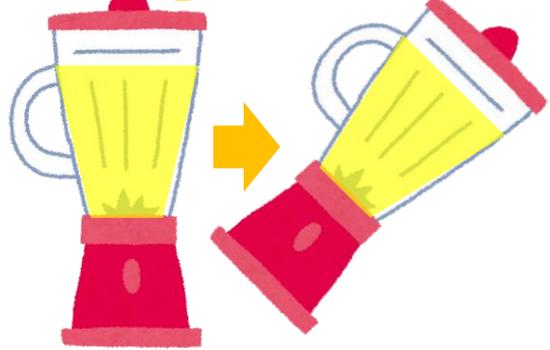


小さな子供にも  
食べてもらえないか？



レモンアユ(稚鮎)を試作

# レモンアユ(稚鮎)とは

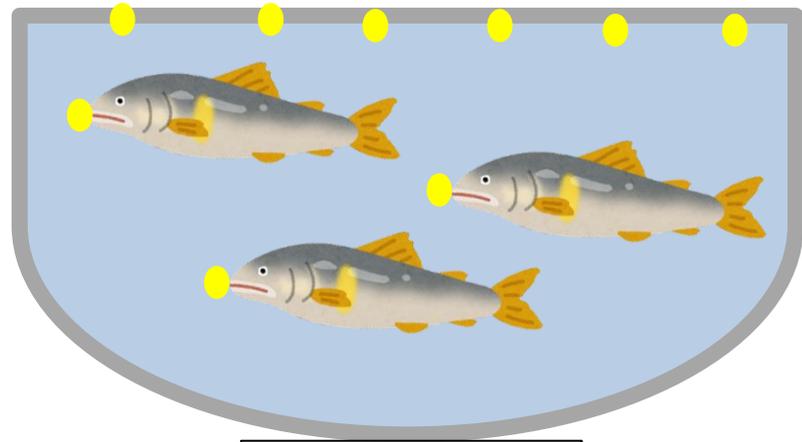


太田川漁協

レモンをすり潰す



餌に混ぜる



アユに与える



広島大学

リモン<sup>※</sup>の蓄積の確認

※レモン由来の成分



レモンアユ(稚鮎)

# レモンアユ(稚鮎)



太田川漁業協同組合



レモンアユ(稚鮎)



レモンアユ(稚鮎)の唐揚げ

# 短期的な方策の取組の結果(アユ)

## 【アユ種苗(人工由来種苗)の放流】

放流年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
放流数量(万尾)	23.7	38.2	49.2	32.4	99.7	27.8	40.8	31.5	96.6	55.0	92.8
人工由来種苗の割合(%)※	4.7	63.8	—	—	15.8	16.0	1.4	76.4	5.3	8.0	

・年により人工由来種苗の割合に変動があるものの、人工由来種苗の遡上が確認されている。

## 【産卵場の維持造成】

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
実施状況 (造成面積)	1300㎡	中止	200㎡	中止	中止	中止	600㎡	600㎡	600㎡	1200㎡	1300㎡

・産卵場の造成を行う大槇の瀬において、多くの年でアユの産着卵を確認している。

短期的な方策の取組について

取組の効果が現れていることが考えられるため、次年度以降も取組を継続する。

## 中期的な方策の取組の結果(アユ)

### 【禁漁区間、期間の設定】

	H25～H26年度	H27年度～現在(区間拡大)
禁漁期間	10月1日～11月15日	10月1日～11月15日
禁漁区間	祇園新橋の下流220m ～安佐大橋上流側	祇園新橋の下流220m ～高瀬堰下流30m

・産卵期の親魚が保護され、産卵数の増加につながっていることが考えられる。

### 【晩期親魚放流】

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
放流数量(尾)	10,000	5,000	8,000	5,500	8,000	5,100	4,000	5,000	2,000	3,000

・放流した親魚が産卵し、流下仔魚数の増加につながっていることが考えられる。

### 中期的な方策の取組について

取組の効果が現れていることが考えられるため、次年度以降も取組を継続する。

# 長期的な方策の取組の結果(アユ)

	H29～R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
高瀬堰の試験的運用 内容:夜間の放流量を増やし、高瀬堰下流でふ化したアユ仔魚の流下を促進する。	運用時間:20時～4時 明確な効果は認められなかった。	濁水のため実施できなかった。 (運用予定時間:18時～0時)	運用時間:18時～0時 明確な効果は認められなかった。	濁水のため実施できなかった。 (運用予定時間:18時～0時)	濁水のため実施できなかった。 (運用予定時間:18時～0時)
祇園・大芝水門の試験的運用 内容:祇園水門のゲートを30cmから60cmに変更し、アユ仔魚の成育に適しているとされる太田川放水路(祇園水門側)への流量を増やす。		2回実施した試験のうち1回について、祇園水門側に多くの仔魚が流下する傾向が見られた。もう1回については、明確な効果は認められなかった。	明確な効果は認められなかった。	流下仔魚数が少ないため、比較することができなかった。	明確な効果は認められなかった。

## 【高瀬堰の試験的運用】

・令和2年度の運用時間に変更後、濁水の影響により実際に運用できたのは令和3年度のみである。また、令和3年度においては、期待した効果は明らかとならなかった。

## 【祇園水門の試験的運用】

・令和2年度は2回実施した試験のうち1回について、祇園水門側に多くの仔魚が流下する傾向が見られたが、その他の年においては期待した効果は明らかとならなかった。

## 長期的な方策の取組について

河川管理者の協力や水道事務所の理解により、令和5年度を目途として試験的運用を実施してきたところであるが運用により期待される効果は明らかとならなかったため、今年度をもって取組を終了とする。

# 短期的な方策の取組の結果(シジミ)

## 【岩場へのシジミ種苗の放流】

## 岩場放流の取組とシジミ資源状況等調査結果の経年変化について

取組

R3.11  
岩場への種苗放流  
(取組開始)



R4.6~8  
産卵



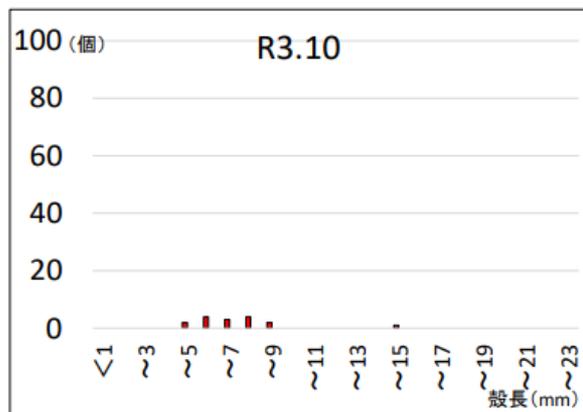
R4.11  
岩場への種苗放流  
(2年目)



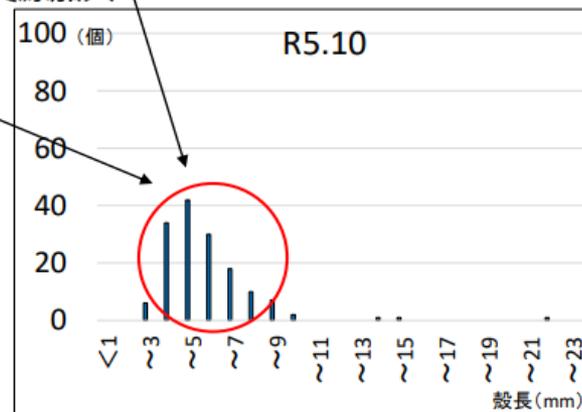
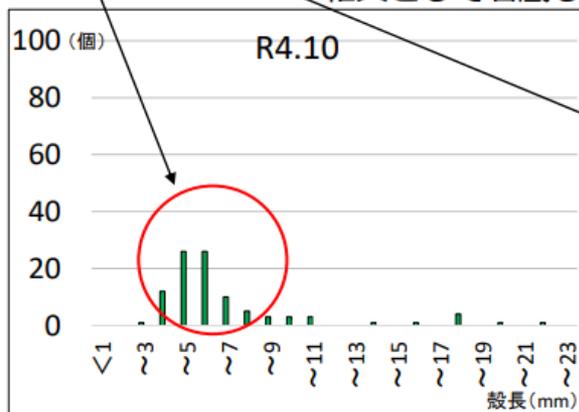
R5.6~8  
産卵



R5.11  
岩場への種苗放流  
(3年目)



岩場放流取組開始前



稚貝として着底し資源加入

・岩場へのシジミ種苗の放流については、放流から9か月後でも生存率が55.6%と高い効果が得られており、岩場へ放流した種苗が母貝として寄与し、稚貝の増加につながったことが考えられている。

短期的な方策について

取組の効果が現れていることが考えられるため、次年度以降も取組を継続する。

# 今後の方向性について

## (仮称)太田川産アユ・シジミの資源再生研究会の立ち上げについて

### 1 概要

本市では、太田川再生方針<sup>※</sup>に基づき平成26年度に太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会(以下「懇談会」という。)を立ち上げ、漁業協同組合や本市等の関係者が行うアユ・シジミ資源を増やすための取組に対する意見聴取を行ってきた。また、この聴取を踏まえ、懇談会の開催を今年度まで行うこととしてきた。

令和6年度以降はこれまでの取組をより実務的に推進する体制として、次案のとおり、関係機関の担当者レベルで協議を行う研究会を新たに立ち上げることをしたい。

※ 平成25年度に、それまで開催してきた太田川再生に関する会議での議論を踏まえて策定した最終報告書。アユ・シジミの資源再生に関する取組をまとめたもの。

### 2 (仮称)太田川産アユ・シジミの資源再生研究会の立ち上げについて(案)

令和6年度以降も、太田川再生方針の「種苗放流に依存した漁業から脱却し、本来の資源の再生産システムを復元して、天然資源を増大させる」という基本方針に沿ったアユ・シジミの資源再生の取組を着実に進めていくための会議を次のとおり立ち上げることとする。

#### (1) 会議の名称

太田川産アユ・シジミの資源再生研究会

#### (2) 関係機関

漁業協同組合、河川管理者、(公財)広島市農林水産振興センター水産部、広島市、その他

なお、適宜、専門家を招聘し、意見聴取するとともに、事例紹介をお願いする。

#### (3) 開催頻度

年1回程度

#### (4) 内容

- ・ アユ・シジミ資源の状況についての情報共有
- ・ 関係機関の取組報告
- ・ 先進事例等の情報収集
- ・ 新たな取組の提案や検討
- ・ その他